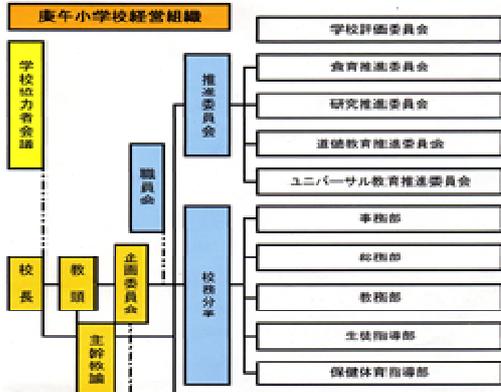


平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島市立庚午小学校		
学校長氏名	藤川照彦	栄養教諭氏名	柴田 芳枝
職員数	60名	児童・生徒数	925名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）



本校では、校務分掌とは別に、推進委員会がもうけられ、その中の食育推進委員会で、食に関する指導全体計画・年間計画・食育の研究推進の立案を行っている。食育推進委員会のメンバーは、各学年1名の食育担当教諭と養護教諭・栄養教諭の9名で構成され、2ヶ月に1回程度実施される。

食育推進委員会では、研究推進のテーマを給食指導の充実・生活習慣の確立・食育授業の充実・家庭との連携とし、年間を通して、各学年の食育担当者と栄養教諭が連携し、組織的に実践することで、食育

を推進している。各学年に食育担当者がいることで、学年全体に食育推進が徹底されるよさがある。昨年度からの課題として、生活習慣確立のための家庭への啓発が、数値として、あらわれていないことがあげられている。今年度も、年間を通して、児童への指導など学校での取り組みと家庭への啓発の両面が充実するよう、取り組みをおこなった。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

本校の学校教育目標1つ、心豊かで元気な子どもを育てる（体）の具体的手立てとして、食育を推進し、家庭と連携して、基本的な生活習慣を身に付けさせるとある。その目標を達成させるべく、今年度の成果指標と目標値を次の通り、設定して今年度取り組みを行った。

- ・生活リズムカレンダーの内容の朝食の項目：朝食の喫食率98%以上3色そろった朝食を食べている児童70%を目指す。
- ・給食の残食率を昨年の数値（副食1.4%主食1.8%）より10%下げる。（目標値副食1.3%以下 主食1.6%以下）
- ・食に関する指導を給食時間以外に100時間以上行う。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）家庭地域との連携

〈家庭との連携〉

- お手伝いチャレンジカード：夏休みの宿題として、家庭で食に関するお手伝いをする。ワークシートにお手伝いの内容を書き、夏休み明けに提出。ワークシートを教室や廊下などに掲示し、啓発資料とした。
- 生活リズムカレンダーの実施：基本的な生活習慣を身につけるため、年2回6月と10月に早寝早起き、朝食、歯みがきについて生活リズムチェック週間を実施。項目の中に3色そろった朝食をもうけ、保護者へのバランスのよい朝食について、保護者の啓発に努めた。

○全学年食育参観日：1年4年「朝食」2年「はしの使い方」3年「おやつ」5年「給食の歴史」6年「睡眠と運動と生活リズム」特別支援学級「食事のマナー」をテーマに参観日に授業を行うことで、家庭の食生活への意識向上のための啓発に努めた。

〈地域との連携〉

○5年生の稲作体験：5年生が田植え・収穫・おむすび作り・ふれあい広場での販売・しめ縄作りを通して、地域の人たちと連携をとっている。

○地域（西区）の地場産物を使用した独自献立の実施：西区は、住宅地の中に畑が点在し、海も近いため、海の幸や農産物が市内でも比較的身近な地域である。その利点を生かし、西区の海産物・農産物を使用した独自献立を実施した。

○スーパーマーケットとの連携：スーパーマーケットと連携し、庚午小学校学区の4つのスーパーマーケットで、献立表の掲示・給食レシピや食育だよりの配布を実施した。学校の保護者以外でもこの食育だよりのレシピを持ち帰る地域の人もあり、学校給食を紹介することで、地域の食の充実にも貢献する手立ての1つとなっている。

○学校のホームページでの給食掲載

毎日の給食を web ページに掲載し、栄養教諭から、その献立についてのコメントも一緒にのせる。

【取組2】(テーマ) 学校給食指導の充実

食育推進委員会で、食育の取り組み主題の1つとして、取り上げている。食に関する指導目標の中で特に感謝の心を（食べものを大切に、食べ物の生産や調理等に関わる人々への感謝する心）に重点をおき、取り組みを行った。担任への働きかけとしては、次の4つの指導ポイントが挙げられる。

①給食指導の徹底：給食指導の中で、配膳時食缶の中味をつぎきる。担任が必ず確認する。

②給食カレンダーを確認し、食材や食事を作る人、食べものへの感謝の気持ちを育てる。

③給食時間を確保する。（食事時間を最低25分は確保する）給食放送が始まるまでに「いただきます」ができるよう配膳指導をする。

④食事マナーを改善するため、毎月給食目標の指導資料を確認しながら指導する。年2回の給食目標週間を設定し、給食目標が達成できているか確認できる週間とする。

これらの他、年3回の給食週間を「食缶をからっぽにしよう週間」とり、児童の励みとなる取り組みを行う。

【取組3】(テーマ) 教科等における食に関する指導の充実

・担任と栄養教諭による T.T の授業での授業や給食時間の指導を行うことで、児童の豊かな食習慣の形成に努めた。1年生では、主に、特別活動の時間、「給食について」「たべものはたらき」「おやつの食べ方」、2年生では、生活科と関連付けた「野菜について」特別活動で「たべものの体の中のたび」、道徳の時間「噛むこと」3年生では、保健体育科の中の「生活リズム」特別活動での「たべものの3つのはたらき」社会科と関連した「ひろしまそだちについて」4年生では、保健体育科の「生活リズム」5年生では言語・数理運用科で「未来の給食を考えよう」特別活動で「食物せんい与健康」、6年生では、特別活動で「おやつの食べ方」言語・数理運用科で「地場産物を使った広島らしいメニューを考えよう」、5・6年生の家庭科、特別支援学級で「朝食」のそれぞれの時間に T.T で授業を行った。この他、食育推進委員会の担当者が中心となり、参観日年間1回食育参観とし、その内容について、栄養教諭が資料を提供している。それぞれの授業で、担任と事前に話し合い、より効果的な指導ができるよう、取り組んだ。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について



イメージキャラクター受賞作品

- ・広島市統一献立で実施し、それに向けて家庭へも紹介の食育だよりを配付した。
- ・広島給食100万食プロジェクトのイメージキャラクターを校内で募集し、食育推進委員会で審査して、庚午小100万食プロジェクトイメージキャラクターを

決定した。作品については、各賞を決め、受賞作品を掲示し、学校全体で、100万食プロジェクトを周知させるよう取り組んだ。

- ・家庭で作った人には、「何のメニューを何人で食べたか」の記入用紙を提出してもらい、その用紙につくレポ（作ってみた感想）記入欄をもうけた。保護者からのつくレポは、10～12月の食育だよりに全て掲載し、さらに家庭でのひろしま給食の実施を促した。

5 取組に対する成果と課題

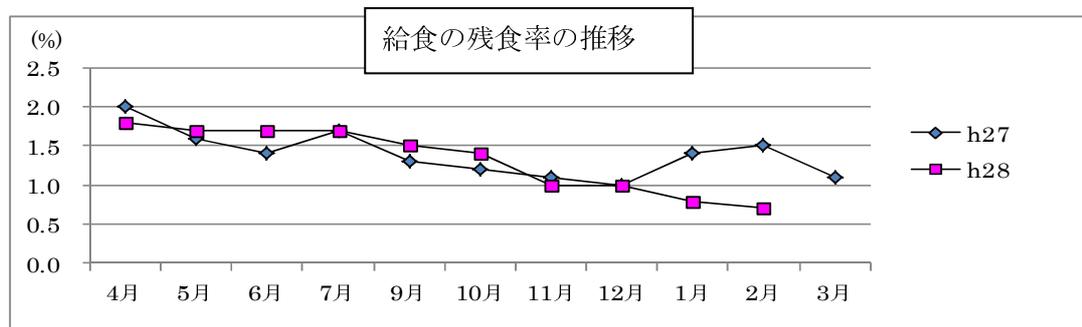
【成果】 数値目標：給食残食率 主食1.8%以下 副食1.4%以下 朝食摂取率 98%以上

3色そろった朝食を食べている児童70%以上

結果：給食残食率 主食1.5% 副食1.3% （主食・副食ともに目標値達成）

朝食摂取率 98%（10月生活リズムカレンダー結果）

3色そろった朝食を食べている児童65%（10月生活リズムカレンダー結果）（前年度と同値）



- ・給食指導の充実については、全職員で残食を少なくするという共通認識を食育推進委員会で持つことができ、指導も充実し、数値でも年度末に向け、減少しているのので、今後も継続して、取り組みを続けたい。

【課題】

- ・生活リズムについて、朝食の喫食率が96% 三色そろった朝食は6月65%10月64%となり、前年度から変化がない。家庭への啓発の難しさを実感する。今後も、取り組みを継続して行うことが必要である。

6 今後の取組に向けた改善方策について

家庭への啓発：生活リズムカレンダーの指導では、事前指導を効果的に行うため、養護教諭と栄養教諭で各学年テーマを決め、パワーポイントでの指導資料を作成したり、全体指導を行ったりして、児童への啓発に努めたが、生活リズムに課題のある児童の保護者への啓発が充分に行うことができず、数値に現れていると思われる。個別指導や、児童が自分で生活リズムを自己管理できる力をつける取り組みを、今後考えていきたい。

食育推進体制：学校全体で食育を推進するためには、教職員1人1人の意識が食育に向いていることが大切だと痛感する。この推進体制をさらに充実させ、職員の意識を高めるため、食育研修をはじめ、どのような取り組みができるか考えていかななくてはならない。